



江戸時代から伝わる「享保びな」出展者  
橋本 佐輔さん (中島町中島)

歴史あるひな人形を添えることで、さらに価値ある「770のひな人形展」へ。

先祖代々伝わって来たひな人形を出展した橋本さん。その人形は「享保びな」といい、享保(1716〜1736)年間に作られた貴重なもの。橋本さんのひな人形が展示に至ったのは、開催事務局がインターネットで、中島商店街でのイベント記事を見たのがきっかけ。開催事務局から出展の依頼があり、貴重なひな人形の展示を快く承諾したと言う。

そして、この家から外へ出すのは今回初めてなんですよ」と話してくれた。

「享保びなは、現代のひな人形と比べ、江戸時代に美男美女とされた顔や流行った服装で作られたのでしよう。見に来られた方々には、そういった時代背景を感じてもらいたいですね。また、能登には、歴史あるひな人形がまだまだあらず。これをきっかけに、他からも出てきてくれたら、この展示は、さらに価値あるものになるのではないのでしょうか」と思いを込めた。



七尾地域女性団体協議会 理事  
佐野 留美子さん

年々、協力してくれる人が増え、小さな輪から大きな輪へ。

「ひな人形展は、ボランティアの皆さんが中心となって、成り立っています。一人の力は小さいかもしれませんが、市民の皆さんに楽しんでもらいたいという気持ちを持つ人たちが集まることで、小さな輪が大きく広がり、想像を超えたひな人形展が開催できています」と、力強い言葉で話してくれた佐野さん。「集まる皆さんは、すごいんです。お互いに知恵を出し合い、メイン会場を飛び越え、廊下

や店舗などにも飾り付けを施し、毎年スケールアップしているんです。今では、商店街の皆さんにもスタンプリリーの協力をいただき、年々協力してくれる人たちの輪が広がっていますのを見るところ、皆さんと一緒に楽しみなが、関わって行きたいと思えます」と、充実感いっぱいの笑顔で話してくれた。



770のひな人形展開催委員会事務局  
村田 充さん

「770のひな人形展」が開催できるのは、携わる皆さんのおかげです。

七尾駅前にあるパトリアは、駅前のにぎわいづくりを担う中心的な施設。その施設を管理運営する七尾都市開発(株)に勤める村田さんは「770のひな人形展」の開催委員会の事務局で、中心的な役割を担っている。当初から携わっていた村田さん。平成24年2月の開催を目指して、スタッフ一丸となって取り組んできたが、ひな人形を集めることや、準備をすることに限界があったそう。「そんな時、女性団体の皆さんの協力をいただけたことになり、本当にうれしかったことを思い出します。この人形展は、女性ボランティアの方々がないと成り立ちません。

特に女性の感性が必要です。さらに感心することが来場者に対して、質問に答えることにはもちろんのこと、観光ガイドのように、七尾市の観光や歴史など、個々で勉強をして答えているのです。あの自然と生まれたおもてなしの対応は、素晴らしいですね」と女性ボランティアの偉大さを語った。

「私たち事務局は裏方です。これからも、皆さんと共に盛り上げていきたいですね。また、市民の皆さんに春の風物詩と感じてもらう素晴らしい人形展にしたいですね」と願っていた。



東部商店街おかみさん会 会長  
向 和子さん

仲間と顔を合わす機会が増え、楽しみながら取り組んでいます。

東部商店街では以前「ひな見の街」と題して、ひな人形展を開催していた。八百屋なら野菜、花屋なら花を使い、店をイメージする手作りのひな人形を展示していた。「770のひな人形展」が始まってからは、スタンプリリー協賛店として参加している。

向さんは「ひな見の街」の取り組みから、おかみさんたちと顔を合わせる機会が増え、商店街のにぎわいづくりの話をするようになり、結束

力が強くなりましたね。そして、私たち自身が楽しみながら取り組んでいることがいいんですよ」と、人を喜ばせるための極意を語る。

「毎年、趣向を凝らし、飽きさせないことが大事」と。今年もは吊るしびなで、「770のひな人形展」と協働し、話題作りと商店街のにぎわいづくりに一役買う。

# 「770のひな人形展」を支える人々

「770のひな人形展」は、ボランティアの皆さんによって開催されています。